商店建築

6
2020

SHOTENKENCHIKU MONTHLY MAGAZINE OF STORE DESIGN / INTERIOR / ARCHITECTURE 2020 Vol.65 No.06

Feature Article

CAFE

New Shop & Environment

エースホテル京都

New Shop & Environment

ザ・ホテル青龍 京都清水

ザ・ひらまつ 京都

ルイ・ヴィトン メゾン 大阪御堂筋

Feature Article

レジデンス共用空間のデザイン

世界のアーティストが空間に溶け合う
ダイナミックな共用空間と遊び心あふれる客室

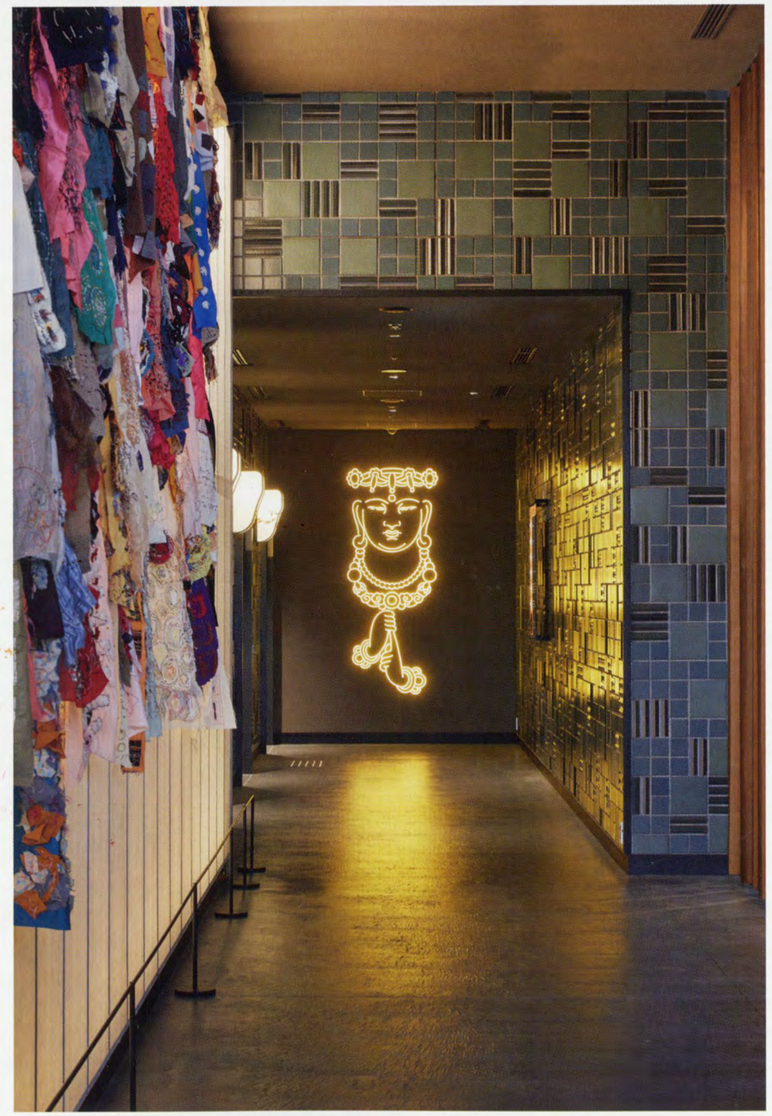
Ace Hotel Kyoto

ACE HOTEL KYOTO
Designer Commune Design

京都府京都市中京区姉小路通東洞院西入車屋町245-2

企画プロデュース／NTT都市開発
デザイン監修／隈研吾建築都市設計事務所
設計／建築　NTTファシリティーズ
　　内装　入江三宅設計事務所　Commune Design
協力／FFE&OSEコンサルティング　クロスリンク
　　アートワークコンサルティング　クロスリンク　ランドスケーププロダクツ
　　サインデザイン　アトリエ・エース
　　ランドスケープデザイン　プレイスメディア
　　照明計画　モデュレックス　共用部サインデザイン　6D
施工／建築　大林組　内装　三越伊勢丹プロパティ・デザイン
撮影／フォワードストローク

「エースホテル京都」1階のホテルロビー。アジア初出店となるエースホテルの内装計画は、これまでもエースホテルのインテリアデザインを手掛けてきたアメリカのコミューン・デザインが担当。隈研吾建築都市設計事務所による外装の木組みは内部へと連続し、それに呼応するようにコミューン・デザインがスチールパイプを組んだ軽やかな照明デザインで施設デザインとホテルデザインを調和させた。ケトルのサインがアイコニックな日本初出店のカフェ「スタンプタウン」（写真右奥）は「新風館」の保存棟に位置する



左上／銅を叩いて仕上げたレセプションカウンター。カウンター周りの壁面にはショップコーナーが設けられた　左下／信楽焼タイル貼りのエレベーターホール。奥はファッションブランド・ヒステリックグラマーの北村信彦氏による作品　右／カフェ「スタンプタウン」の店内。カウンターバックの壁面タイルには、色味を確認するための試作タイルを使用した

西洋と東洋のデザインを融合し世界各国の旅行者を迎える

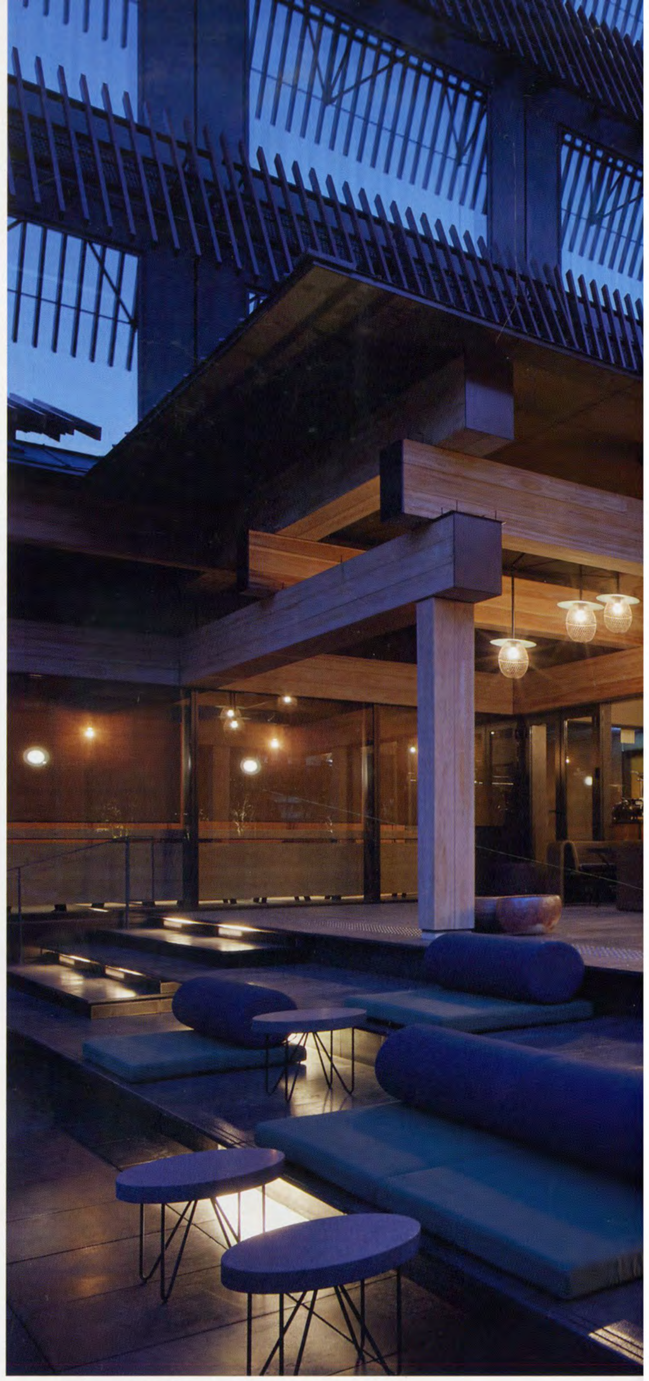
「エースホテル京都」の内装をデザインするにあたって掲げたコンセプトは「East Meets West」である。エースホテルが得意とするアーティストとのコラボレーションをここでも実現させるため、5年近くの歳月をかけてアメリカ西海岸や地元京都のアーティストおよび職人を探した。コラボレーションはアートのみならず、内装仕上げ材や照明器具にも見られる。例えば、レストランの間仕切りパネルはAlexander Kori Girard（アレクサンダー・コーリー・ジラード）氏の作品で、床のモノクロのモザイクタイルの柄も同氏がデザインした。京都に古くから伝わる伝統工芸のひとつである金網細工は、ルーフトップバーや2階のバーの照明に採用。漆喰、木材、和紙などの日本古来の有機的な内装材と西洋のデザインを掛け合わせることで、純和風のデザインから離れ、日本人のみならず世界各国の旅行者を迎える温かみと、懐かしさを感じる空間を目指した。

客室は白い漆喰壁や木の天井縁、畳、簾などの和の装いに、ミナ ペルホネンの華やかなカーテンや照明がアクセントとなっている。

1階ロビー床の墨入りコンクリートや特注の信楽焼タイル、銅、真鍮などの無機質な材料にもハンドクラフトの味わいを残した。1階コーヒーショップのカウンターバックのタイルは、本来なら捨ててしまう色味を確認するための試作タイルであり、二つとして同じものはない。1階レセプションカウンターや2階バーの天井に使われている銅は経年変化していく素材である。年月をかけて「エースホテル京都」を楽しんでいただきたいという気持ちを込めている。

〈コミューン・デザイン〉

左頁／メキシカンレストランは、中2階と2階に客席が分かれる。中2階には銅板貼りのDJブースが設けられた　右上／同店2階のカウンター席。天井に貼られた銅板が景色を複雑に反射する。経年変化により風合いが変化していく　右下／同店2階のカウンター席からソファ席を見る。天井の木組みとスチールのパイプが1階から中2階、2階へと連続する



左上／ルーフトップバーを持つ3階のイタリアンレストラン。カウンターバックには薪釜が設置された　左下／同店のカウンターからルーフトップバー方向を見る。天井には京都の金網細工の技術を用いた照明が吊られた　右上／新風館の中庭を一望できる同店のルーフトップバー　右頁下／同店の客席。タイル貼りの床とパーティションにアーティスト、アレクサンダー・コーリー・ジラード氏が手掛けたパターンが広がる

3階メインダイニングは、ふすま越しに空間が連続する和式住居のような構成

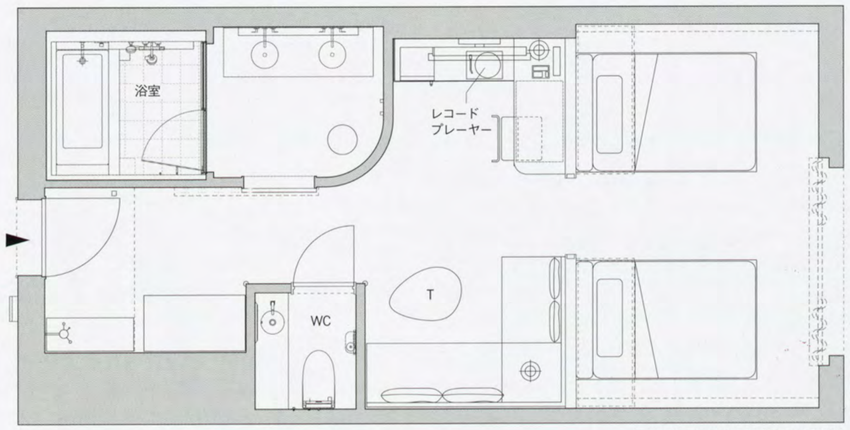
バンケット前のホワイエ。絵巻のようなアートや細かい寸法で割り振られた壁面のパターンが和の要素を感じさせる

結婚式や宴会、会議などに対応する366㎡のバンケット。奥の間仕切りは可動式で、最大収容人数約300人に対応する

保存棟2階の客室前廊下。外装の骨太な木組みが内部にも連続する。右手の開口部からは中庭が見下ろせる

新築棟共用部。階段の天井部に設けられたトップライトは、壁面内側をクシ引き仕上げとし、光を柔らかく室内に落とす

保存棟3階、通路を挟みベッドを左右に振り分けた客室「ヒストリックツイン」。3階の客室には既存開口部のアーチ形状（P.40参照）がそのまま表れている



ヒストリックツイン 客室 PLAN 1：80

既存建物の出窓を活かした「エーススイート」。和紙貼りのイサムノグチのペンダントライト、ミナペルホネンのカーテンなど、和の素材や日本のアーティストとコラボレーションした家具を配置した

ふすまの裏側に備えられた「エーススイート」のミニバー

同室の寝室。各客室の壁面には、染色工芸家・柚木沙弥郎氏によるアートが飾られている

新築棟に設けられた客室「たたみスイート」。就寝時は畳敷きの小上がりに布団を敷く。天井部分には和紙貼りの照明が雲のように浮かぶ。左手にはミニバーとカウンターを設けた

総支配人のコメント

地域コミュニティーに溶け込む「フレンドリーな場所」

「エースホテル京都」が建つこのエリアは、伝統と新しい可能性、ビジネスと住民の生活が混合しており、街を行き交う世代もさまざまで、観光客はもちろん、住民にとっても価値がある特別な場所だと感じています。まずはこの場所の歴史に敬意を払いながら、伝統あるコミュニティーに溶け込んでいき、これまでエースホテルが培ってきた愛情と寛容さを持った場所づくりをしていければと考えています。

エースホテルは「フレンドリーな場所」です。誰でも出入りが可能なパブリックエリアでは、音楽やアートイベントなど、多くの文化イベントが日々開催されます。国際的で多種多様な人々が、ここ「エースホテル京都」に集まり、創造的な体験ができる場になること、ひいてはこの場所の伝統や文化を持続させることに貢献できればと考えています。

〈エースホテル京都 総支配人　ニコラス・ブラック〉

エースホテル京都 総支配人 ニコラス・ブラック氏
（ポートレート撮影／Yuuki Gorta）

左／保存棟に位置する「ロフトスイート」。音楽はエースホテルにおいて重要な要素であり、客室にはターンテーブルやギターが置かれている　右／水まわりは、木を多用したクリーンな設え。アメニティーには日本のトータルビューティーサロンuka（ウカ）がエースホテルのために制作したものが備えられる